

日本海スルメイカ漁場調査

(抄 録)

今村 豊・黄金崎 栄一

2000年4月～10月に試験船東奥丸（140トン）及び試験船青鵬丸（65トン）でスルメイカの漁場調査等を実施した。調査は4、5、6、8、10月の計5回行ない、スルメイカの漁獲が多い場所では、標識放流を行った。全放流尾数2,208尾であった。

沿岸域におけるスルメイカ

2000年本県日本海沿岸に來遊したスルメイカは、例年並の5月下旬（小泊は昨年より1日遅い5月26日・三厩は昨年より1日早い5月23日）に初漁がみられた。日本海主要港（深浦・小泊・下前・小泊）では、漁期を通じ低調に推移し、前年の約61%の3,009トンとなり90年代以降、最低の水揚げ量となった。

日本海で主に漁獲されるスルメイカは、秋季発生系群である。我が国の秋季発生系群の漁獲量は、90年代前半は13～15万トンで推移していたが、96年に増加し17.7万トンと90年代では最も多い漁獲量を記録した。しかし、98年には10.8トンに減少し、99年に14.0万トンに増加したものの、2000年には再び10.4万トンと減少し、近年では最も少ない漁獲量となった。

沖合域におけるスルメイカ

本県における日本海沖合のスルメイカの水揚げは、中型いか釣船による八戸港への水揚げ（一部太平洋の漁獲物含む）で、2000年漁期（7月～翌年4月）までの水揚げ量は23,404トンとなっており、前年同期の水揚げと比較すると99.4%（前年23,556トン）で、ほぼ前年並みとなっている。

発表誌：平成12年度いか釣漁場開発調査資料26号及び平成12年度外洋性イカ（スルメイカ・アカイカ）に関する生物測定・標識放流・海洋観測結果基礎資料集 青森県水産試験場